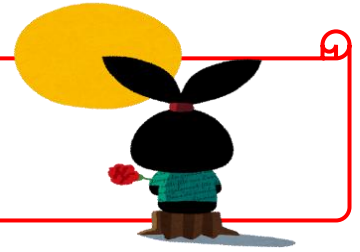


いずみ

令和8年度 5月号
図書委員会



季節は淡く優しい春から、力強くエネルギッシュな初夏へ。新学期が始まって1か月が経とうとしています。1年生の皆さん、北高での高校生活には慣れてきましたか。4月のオリエンテーションでは図書館に来てくれてありがとうございました。返却時には、ぜひ、次の本を借りてくださいね。2・3年生の皆さんは、新書を探しに図書館へ来てくれる人が増えたように思います。進路選択に向けて図書館をおおいに活用してください。図書館では、図書委員お薦めの本をはじめ、本屋大賞に選出された本などの新着図書も揃えて、皆さんをお待ちしています。今年の目標に、「多くの本を読む」を入れ、日々成長していきましょう！

★図書委員長・副委員長からの挨拶★

《委員長 3年 井上実咲さん》

松北図書館には、約四万冊もの図書が揃っています。中でも、本屋大賞を受賞した本や、図書委員からのおすすめの本紹介など、さまざまなコーナーが設置されています。本が苦手な人でも、手に取りやすいものがたくさんあります。また、自習スペースも確保されています。読書はもちろん、昼休みや放課後の自習など、ちょっとした息抜きにも最適です。多くの座席があるので、お気に入りの一席を見つけてみるのも楽しいですよ。静かな空間で、紙の香りに包まれると、自然とリラックスできます。ぜひ、図書館に足を運んでみてください。

《副委員長 3年 木村咲葵さん》

私は普段から本を読むことが好きで、これまで多くの本に触れてきました。読書は知識を得るだけでなく、さまざまな考え方や表現に触れることができる点に魅力があると思います。また、本の中の言葉や会話に触れることで、自分の気持ちを整理し、相手に伝えることの大切さを実感できます。さらに、本を読むことで自分では経験できないような出来事や世界に触れることができるのも、大きな魅力の一つだと思います。毎日の朝読書の時間をきっかけに本に触れ、多くの人に読書の魅力が伝われば嬉しいです。

北高の図書館では、愛媛新聞、朝日新聞、The Japan Times Alpha(週刊英字新聞)の3種類の新聞を置いています。貸出はできませんが、時事的な話題に触れたい人は是非、図書館奥の丸テーブルで新聞を開いてみてください。



(愛媛新聞令和8年4月20、21日より掲載)

愛媛新聞では、私たちの先輩である直木賞作家・天童荒太さんの連載「神話の仔」が4月20日より始まりました。児童虐待をテーマにした「永遠の仔」の続編です。図書館には天童さんのコーナーもあります。ぜひ、多くの著書から一冊、手に取ってみてください。



The Japan Times Alpha(ジャパントイムズアルファ)は、最新ニュースから科学、スポーツ、食、エンタメまで、多彩なジャンルの記事を良質な英語で読むことができます。英語レベルは北高生にちょうど良い中上級者向け。まずは、興味のあるページをめくってみてください。



(the Japan times alpha

May 1, 2026 より掲載)



書名	作者名	おすすめの理由	図書委員
星の王子さま	サン＝テグジュペリ	「星の王子さま」は大切なものは目には見えないというテーマをやさしく伝え、心に深く残る作品です。ぜひ読んでみてください。	301
人間失格	太宰治	この本は幼少期から人間への恐怖を抱え、道化として生きること社会に適応しようとした大庭葉蔵の自己破壊的を描いた物語です。読み始めから語彙力の高さに衝撃を受けました。読むことも辛くなるような物語なのに、読み進めずにはいられない作品です。	301
同志少女よ、敵を撃て	逢坂冬馬	ドイツ軍により家族を失った少女が復讐のために狙撃兵になる物語です。ソ連・ドイツ・女性・男性それぞれの感情が交差する中で真の敵について考えさせられる話なのでぜひ読んでみてください。	302
こころ	夏目漱石	Kと先生の関係と心情がポイント。二人の恋心と先生の過去のひみつについて。先生とK、あなたはどちらの気持ちにもなれるはず。ぜひ読んでみてください。	302
こころ	夏目漱石	夏目漱石の本で、人間の孤独や葛藤を丁寧に描き、読むほど、心に響く名作です。ぜひ読んでみてください。	303
地上に星座をつくる	石川直樹	旅と写真を通して人と世界の繋がりを見つめなおし、遠い場所と身近な日常が重なり合う感覚を味わえて、読むほど新たな視点や気づきを広げられるところがお勧めのポイントです。	303